

2025年(令和7年)1月20日(月曜日)

電波新聞

日立チャネル
ソリューションズ

資料、機材など物品管理効率化 物品自動探索システム 披露



書籍を探すデモンストレーション

日立チャネルソリューションズ（旭本社＝愛知県尾張旭市）は、汎用（はんよう）カメラとQRコードを活用した「物品自動探索システム」を開発した。システムは、オフィス内の資料、図書館などの施設の書籍、工場・倉庫・サービスなどさまざまな業界で使用される機材、備品などの物品管理を効率化する。

フローは①施設内の広い保管スペースにある数多くの物品の中から、汎用カメラを通してそれぞれの物品に貼り付けたQRコードがどこにあるか把握②読み取ったQRコードからQR情報を取得し、該当するQRコードが付いた探索対象の物品を自動で見つけ出す③

定めた物品に対してラ

イットを照射し、その位置を明示する。物品の位置や移動履歴の追跡も可能で、物品の貸し出し、返却などの確認もできる。

QRコードでは難しいとされていたゆがみや欠損にも対応。画像処理技術でこれらを補

正できるため、物品の置き方やサイズ、QRコードの位置（角度）

や大きさ、一部が見えないといった条件にも対応する。想定される

ケースは①カメラに対し遠くもしくは近くに

置かれた大小の

サイズに対応②QRコ

ードの一部が他と重な

り見えない場合も読み取り補正を自動で実施

③壁面などに張り付けられながら見えるも

のに対し補正を自動で

実施――など。

活用先は、オフィスや倉庫などを想定。事務所では、財務関連の

資料が法務関係の棚に

紛れているなど正しく

指定された場所に保管

されないか検知す

る。出荷で物品の移動

が激しいと想定され

る。QRコードが読みなく

なることを組み合わせ

せる。

時間やカメラ画像、

QRコードが読みなく

なることを組み合わせ

る。QRコードを付けて

管理もできる。台車

にQRコードを付けて

おけば「午後2時にA

さんが台車を使い始め

た」ということも分か

る。システムは昨年10月に名古屋市で開催され

た「第7回名古屋ロボ

ードデックス」に参考出展

した。さまざまな利用

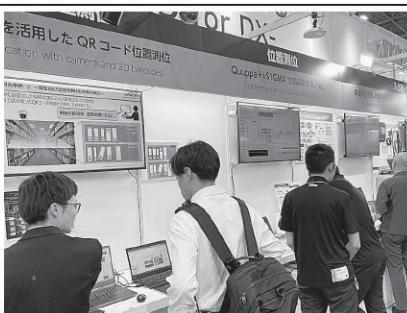
様については検証

結果を踏まえて、

高速化など機能の追加や利便性の向

上に取り組む予定

だ。



名古屋ロボデックスでの
ブースの様子

明課長は「既存のカメラを使用でき
る。システムを導入してすぐに誰でも
使える」と人手不足への対応も強調した。

製品の機能や仕

様についても、カメラを複数台で複数の位置で同時に撮影する。システムを導入してすぐに誰でも使える」と人手不足への対応も強調した。



梅村課長（左）と
三宅部長

QRコードは印刷が可能で、RFIDを利

用した場合に比べて、導入機器や登録の手間が少なく、価格面の優位性が高いほか、金属面にも対応できる。

海外事業部開発本部

ソフト開発部の梅村英

は、「QRコードは印刷が可能で、RFIDを利

用した場合に比べて、導入機器や登録の手間が少なく、価格面の優位性が高いほか、金属面にも対応できる。

海外事業部開発本部

進センタ営業部の三宅健文部長は「2025年度中に商品としてお披露目したい。アイデア次第でさまざまな使い方ができる。コラボなども積極的に取り組みたい」と意気込みを語った。